

「壁」～自分の未来は、自分の心の中にある！～

2025.3.25 校長 西谷 秀幸

本日は、第95回卒業式を挙行いたしましたところ、板橋区 都市整備部 建築安全課長 吉田 亘（よしだ わたる）様、区議会議員 ひはら みちこ 様をはじめ、多数の御来賓の皆様に御臨席を賜り、ありがとうございました。

高いところから誠に失礼ですが、心より御礼を申し上げます。[一礼]

卒業生の皆さん、御卒業おめでとうございます。皆さんとは、1年間だけでしたが、最後に校長室で食べた給食に至るまで、最高に楽しい時間を過ごすことができました。本当にありがとう。

そんな皆さんに、小学校生活最後の話として、「壁」という話をします。といっても、家や教室などにある「壁」のことではありません。「そんなの無理だ」と思う「心の壁」や、「そんなことできるわけない」という「世の中の常識」といった「目に見えない壁」のことです。

先週、アメリカのメジャーリーグの開幕戦が東京ドームで行われ、大谷翔平選手がホームランを打つなど、日本中が盛り上がりましたね。

皆さんも知っている通り、大谷選手は、ピッチャーとバッターの二刀流の選手として、世界で最もレベルの高いメジャーリーグで2年連続、合計3回もMVPを獲得し、一昨年、行われた野球の世界大会、WBCでもMVPを獲得した世界最高の選手です。

そんな大谷選手は、高校生のときから、プロの注目の的でした。そして、ピッチャーとしてもバッターとしても超一流だった大谷選手は、プロではピッチャーだけをするのか、バッターだけでいくのか、世の中で勝手に論争が始まりました。というのも、「ピッチャーとバッターの両方に取り組むことは、あり得ない」というのが当時のプロ野球における「世の中の常識」だったからです。

しかし、一昨年の侍ジャパンの監督で、当時、北海道日本ハムファイターズの栗山監督は、大谷選手を「ピッチャーとバッターの二刀流で育てる」ことを提案し、大谷選手も、最初は高校卒業後、すぐにアメリカのメジャーリーグに行くという考えを変えて、日本でプロ生活をスタートすることを選びました。

そんな大谷選手と栗山監督に、世の中の人たちは、何と言ったと思いますか？

「そんなことできるわけがない」「大谷も栗山もプロをなめている」…。まさに、これこそが「プロ野球界の常識」という壁でした。

しかし、大谷選手は、そんな「世の中の常識」を見事にくつがえし、二刀流で結果を出して、24歳のときに、アメリカのメジャーリーグに挑戦します。すると、今度は「メジャーリーグの常識」という壁が立ちはだかります。「確かに、日本では二刀流で成功したかもしれないけど、メジャーリーグでは、通用するわけがない…。」大谷選手はほしいけど、二刀流は認めない…そんなチームが多い中、大谷選手は、二刀流を認めてくれたエンゼルスというチームに入団し、今度は、メジャーリーグでも二刀流で結果を出して、今度は「メジャーリーグの常識」という壁を打ち壊しました。

実は、大谷選手は「二刀流」という言葉を自分で使わないのだそうです。なぜなら、大谷選手にとって「野球は、投げて打つのは当たり前」であり、プロだから、メジャーリーグだから「そんなの無理だ」と「諦める」ような「心の壁」がないからなのです。

とは言っても、「世の中の常識」という壁は、そう簡単には壊せません。

例えば、大谷選手の場合、高校１年生のときに、このような「目標達成シート」を作り、「プロ野球で８球団からドラフト１位指名を受ける」という目標に向かって何をしなければいけないのか、書き出しました。

そして、目標を実現させるために、合計６４個の解決すべき課題を書いて、１つ１つをクリアしていくことによって、「世の中の常識」という壁を打ち破っていったのです。

ここで注目してほしいのは、目標を達成させるためには、**野球のことだけでなく、「運」**や「人間性」も大切と考えていることです。そして、「運」を引き寄せるために「挨拶」や「ゴミ拾い」をすることや、「人間性」を高めるために「思いやり」や「感謝」を忘れないで「愛される人間になる」ことも、このシートに書いて、日々積み重ねてきたということです。

さて、これからの人生、皆さんの前には、幾度となく「壁」が立ちはだかることでしょう。でも、それって、本当に「壁」なののでしょうか？もしかしたら、それは、自分が勝手に作っている「心の壁」なのではないのでしょうか。もしくは、いつ、どこで、誰が作ったのかも分からない「世の中の常識」という「壁」なのではないのでしょうか。

ですから、やる前から「そんなの無理だ」なんて思う「心の壁」は、自ら取り払ってしまおうよ！そして、やってもいないのに、「そんなことできるわけない」なんて決めつける「世の中の常識」という壁なんて、打ち壊して作り替えてしまおうよ！

壁をこわし、輝かしい未来をつくるのは、他でもない皆さん自身の心なのです。

「自分の未来は、自分の心の中にある！」

これが、皆さんに贈る私の最後の言葉です。

終わりにになりましたが、保護者の皆様、本日はお子様の御卒業、おめでとうございます。また、長い間、本校の教育に御協力をいただき、ありがとうございました。

皆様お一人お一人が、１２年間、大事に育てられてきた「大切な大切なお子さんを本日、確かにお返しいたします」。今後とも卒業生の母校として支えてくださいますよう、お願い申し上げます。[一礼]

卒業生の皆さん。今日から、新たな第一歩が始まります。皆さんの輝かしい未来をこれからもずっと応援しています。

以上で、私の式辞といたします。

令和７年３月２５日

東京都板橋区立板橋第五小学校長 西谷 秀幸